

私たちの成長実感と価値創造

本社の各部門や研究所、グループ各社、海外拠点など、挑戦の舞台は広がり続けます。

部門や言語の壁を越えた連携の手応えが、JSRの価値創造を前へ。

等身大の声から、私たちが成長のかたちをご紹介します。



JSR (Shanghai)
Co., Ltd. 駐在中
研究開発

2019年、海外短期留学派遣制度を利用し、米国に3か月間留学しました。参加前は、言語の壁により顧客と直接コミュニケーションを取ることが難しく、グローバル企業で働くことに漠然とした不安がありましたが、留学を通じてコミュニケーション面はもちろん、生活面も含めて海外での業務に前向きに取り組む姿勢が身につきました。現在は中国に駐在しており、当時の経験が大いに活かしています。中国語の学習も継続しており、まだ初級レベルではあるものの、現地顧客に中国語でコミュニケーションすると喜ばれ、研究開発として、関係構築や研究開発業務における課題解決、ニーズの把握に積極的に取り組むことができています。



本社勤務

現在は経営企画部で、経営理念浸透、中期経営計画の策定・実行支援、グループ経営管理、リスク管理、プロジェクト支援などに携わっています。今後もしばらくは現業を通じて、企業価値向上に向けた取り組みをさらに進めていきたいと考えています。私は、合成樹脂事業の営業・企画管理から、デジタルソリューション/ライフサイエンス事業を中心とした海外現地法人管理部門へと異動し、異なる分野の経験を積むことができました。こうしたキャリアの広がりは、JSRのCDP制度のおかげだと実感しています。



本社勤務

若手にも広い裁量が与えられ、入社年次にかかわらずプロジェクトを任せられ、相談・提案が受け入れられる風土の中で、多くの挑戦機会を得ました。具体的には、入社2～3年目に子会社買収後の管理会計体制構築を支援。4～5年目にはM&A案件での社外説明やプロジェクトの意思決定に関わる経営層との議論や報告の場にも同席しました。こうした経験が、早期からの成長と責任ある役割の担い手を育てる基盤となっています。



テクノUMG(株)
合成樹脂事業
研究開発

若手の段階から責任ある業務を任せられました。入社3年目頃、テクノポリマーヨーロッパ(現 Techno-UMG Europe GmbH)の発足に合わせ、販売実績が乏しかった欧州市場向けの戦略グレードの開発を担当。開発・提案を進めるにあたり、様々な部門の支援を得て成果につなげることができました。欧州出張での顧客訪問や勉強会参加など、現地での実践機会も与えられ、挑戦と成長を後押しする当社の風土を体感しました。



JSR Electronic
Materials Korea
Co., Ltd. 駐在中
半導体材料 研究開発

化学系学部卒、博士課程修了。卒業後すぐにJSRへ入社して、今年で10年目。最初の3年半 四日市のR&Dで研究開発、その後4年半、ベルギー(JSR Micro N.V.)に駐在。日本で研究開発業務に携わったのちに、韓国にあるJEMKへ転勤となりました。実装、リソグラフィと複数の材料群の業務に携われる点は、JSRだからこそ得られた経験です。また、同一材料群でも拠点ごとに役割が異なるため様々な経験ができます。四日市の研究所、米国のInpria社、欧州のIMEC、川崎の研究所と連携しつつ、研究開発業務を進めています。



JSR Electronic
Materials Taiwan
Co., Ltd. 駐在中
半導体材料 研究開発

2011年に入社し、2018年から台湾に駐在して半導体材料の研究開発を担当しています。世界最先端の半導体製造をリードする台湾でのR&Dはスピード感があり、厳しい対応を求められる場面も多くありますが、JSRで培ったスキルを活用して着実に課題を乗り越えてきました。今後は、経営基幹職として先輩方から受け継いだ技術を次世代メンバーに伝承し、事業成長と社会への貢献につなげていきたいと考えています。



四日市工場
ディスプレイ材料
品質保証・製造技術

現在、ディスプレイ材料の一つである配向膜製品の品質保証・製造技術に携わっています。研究開発と製造をつなぐ立場として、四日市・本社・国内外の各拠点や取引先など、日々多くの方とやり取りを重ねるのがこの部署の特徴です。相手にとってベストな伝え方を探りながら前に進むのは難しくても楽しい時間です。多様な経験を持つプロフェッショナルから学び、若手も議論の中心で成長できる環境です。



四日市工場
半導体材料
品質管理

2010年代に4年間、台湾(現 JSR Electronic Materials Taiwan Co., Ltd.)に駐在し、最先端の半導体顧客対応に従事しました。自身の希望によるキャリアではなく、当時は厳しい局面の連続でしたが、結果として大きな学びと成長の機会となりました。